

富山大学アーカイヴズ・ニュースレター

—富山大学の未来をひらく恒常的なアーカイヴズ組織の設立を—

ARCHIVES NEWS LETTER

2018.3.28 第5号

アーカイヴズ設置検討準備室長 入江 幸二 (人文学部)

フェイクニュース、資料の廃棄、記録の改ざん。ここのところ世間を騒がせているニュースでよく耳にする単語です。いずれも国家という組織の屋台骨を揺るがしかねない問題ですが、こうしたニュースは、正確な記録を適切に残すことが組織にとってはきわめて重要である、ということであらためて我々に突き付けているのではないのでしょうか。言うまでもなく、大学のような一個人では把握しきれない規模を持った組織が健全に運営されるためには、記録を残し、必要に応じてそれを参照していく事が欠かせません。ことに昨今の大学は大小さまざまな改革に追われ、目の前の課題を乗り越えることに我々は傾注しなければならなくなっていますが、そうであればこそ法規や過去の取り決めなどを意識せざるをえなくなります。

その一方で、戦後各地に新制の国立大学が誕生してもうすぐ70年が経過します。教養部の廃止や法人化など大きな転換を経ながらも一定の歴史を重ね、記録はますます膨大なものとなりつつあります。あらゆる記録・資料をもれなく残すことが不可能であるならば、どの資料をいつまで保管するか、あるいはいつ廃棄するか、といった判断が求められます。とりわけ現場の業務には不要となった資料の保存や廃棄については、「大学の歴史」という観点から長期的な視野に立って判断しなければならないでしょう。

さらに大学の歩みを記録し大学史を編纂することは、「大学の自己点検」を行い、「大学としてのアイデンティティを確かめ、それを社会に問い、広げてゆく」(寺崎昌男・別府昭郎・中野実編『大学史をつくる』東信堂)ことにつながります。建学の精神が明瞭な私立大学と比べると、国立大学法人は「なぜここにこの大学があるのか」ということに対して、教職員さらに学生の意識はあるいは向きにくいかもしれません。しかし資料を保管しそれにもとづいて大学の歩みを記録していくことは、単に大学を健全に運営するというだけにとどまらず、ひいては大学の個性を打ち出すことにもつながります。変化の激しい時代であればこそ、富山大学の未来をひらくために、恒常的なアーカイヴズ組織を設立しなければならないと考えます。



「富山県教育発祥の地」石碑
(北新町いたち川治い)



「別れの松」
(五福キャンパス正門)



「経営短期大学部入学記念樹の標柱」
(経済学部)

全国大学史資料協議会への参加と淑徳大学・愛知大学の見学

全国大学史資料協議会は、大学に関わる史資料の収集・保存・研究を行う大学の連絡協議会として始まった組織で、全体での総会・全国研究会と、東日本部会（本学はこちらに所属）・西日本部会それぞれでの活動が毎年行われています。

2017年6月に淑徳大学千葉キャンパスで開催された、全国大学史資料協議会東日本部会の総会に参加しました。総会ののち学祖紹介のビデオを拝見し、さらに学祖展などの展示やアーカイブズ資料庫などを見学することができました。一連の見学を通して強く感じたのは、社会福祉の大学として始まったその原点を非常に大切にされているということです。アーカイブズの存在が、原点を振り返り社会における大学の存在理由を確認するという大切なことと結びついていることを再認識することができました。



淑徳大学 淑水記念館（外観）と、アーカイブズ資料庫

2017年10月には、愛知大学（豊橋市）で開催された全国大学史資料協議会の全国研究会に参加しました。ご存知の方も多いでしょうが、愛知大学の前身である東亜同文書院大学は、1945（昭和20）年7月から11月まで富山市呉羽に分校が置かれており（あいの風富山鉄道呉羽駅南側にある富山市民芸術創造センター・桐朋学園大学院大学・県立呉羽高校の辺り）、富山とは縁のある大学です。

研究会は「新制大学発足をめぐる各大学の動向－その資料と活用－」をテーマとし、名古屋大学・大谷大学・明治大学・熊本大学・神奈川大学・愛知大学からそれぞれ報告が行われました。

また昼食後の休憩時間を利用して、キャンパスから少し離れた場所に位置する愛知大学公館を見学する機会を得ました。陸軍第十五師団の長官舎として1912（明治45）年に建設されたもので、長く宿舍として活用されてきました。そのため比較的よい状態で保存されています。公館以外にもキャンパスの中には師団由来の建造物がいくつも残っており、大学のいわばアイコンとして存在感を放っていました。このような大学の成り立ちと深く関わる「モノ」を残すことは、ときにコストが問題になる場合もありますが、一方でその大学の伝統や品格を示しうるものともなります。



愛知大学公館
(東亜同文書院大学記念センター 提供)

本学の場合、空襲などのためこうした古い建物はほとんど残っていません。ですがたとえば五福キャンパスの正門横に立っている、いわゆる「別れの松」は旧歩兵 35 連隊が駐屯していた頃にはすでにあつた樹であり、文字どおり五福キャンパスの歴史を見てきた数少ない「モノ」と言えます。そういった「モノ」を正しく保存することは、富山大学の個性を打ち出すことにもつながるかもしれません。

なお淑水記念館・愛知大学公館を案内していただくとともに、写真掲載をご快諾くださった淑徳大学ならびに愛知大学の関係者の皆様に御礼申し上げます。また東亜同文書院大学記念センターのご厚意により愛知大学公館の内外観の写真をご提供いただきました。記して感謝する次第です。

総合科目「富山大学学」について

「富山大学学」とはやや不思議な響きの科目名ですが、学生が自分の所属する大学について学ぶ「自校学」に該当します。近年は私立大学のみならず国立大学でもこのような自校学を開講するようになりつつあります。本学では室長の入江がコーディネーターとなり、各学部にお問い合わせして1コマずつ学部の歴史と今を紹介していただくほか、ヘルン文庫の見学などを行ったのち、バス1台を仕立てて史跡等見学をしています。旧制高校（馬場記念公園）・薬学専門学校（奥田寿町公園）・師範学校（南部中学校）・高等商業学校および工学部（高岡高校と高岡文化ホール）などの記念碑や、五福・杉谷キャンパスの学生が足を運ぶことの少ない高岡キャンパスを見て回ります。1日がかりになるため、五福キャンパスに戻る夕刻には受講生たちは疲れ切っていますが、そうした「体験」こそが大学に対する愛着を醸成することに、ひいては学生たちの主体的な学びにもつながると考えています。



2016年12月 富山市立南部中学校



2017年12月 馬場記念公園(蓮町)



2017年12月 高岡キャンパス

◎2017年度業務日誌（抄）（2017年4月～2018年2月）

2017（平成29）年	
4月3～14日	大学展開催（中央図書館2階ロビー）
5月25日	連隊門衛所建物棟木 保管・廃棄評価（新たな展開を待ち保管する）
6月8日	全国大学史資料協議会東日本部会2017年度総会（淑徳大学千葉キャンパス） 室長出席
7月6日	年間業務の見直し（歴史資料の印刷部数の見直し、常設展示実施を計画）
8月23日	附属小学校140年記念行事に向けての資料に関する相談対応（根岸校長ほか）
8月24日	一般人より富山大学資料館について照会対応（9月4日来学対応）
9月5日	高岡キャンパス、高岡高校、高岡文化ホール記念碑など取材
9月14日	打合せ：常設展示計画の場所について学生支援担当副学長に説明
9月25日	打合せ：29年予算執行、30年予算要求（事業計画策定→常設展示予算要求）
9月27日	読売新聞と打合せ：「富山大学の今と昔」取材（富山師範学校－人間発達科学部について）
10月12・13日	全国大学史資料協議会2017年度全国研究会（愛知大学豊橋キャンパス） 室長出席
10月25日	経済学部へ高岡高等商業学校関係資料の提供（アーカイヴズ保存資料をデータで）
12月7日	打合せ：大学展（定期）の将来展望ほか
2018（平成30）年	
1月22日	打合せ：大学展（定期）実施の詰め、「別れの松」保存への働きかけ検討
2月27・28日	アーカイヴズ資料調査（国際基督教大学、津田塾大学、信州大学）

◎お願い

富山大学（富山師範学校、富山女子師範学校、富山青年師範学校、富山薬学専門学校、旧制富山高校、高岡高等商業専門学校、高岡工業専門学校、旧富山大学、富山医科薬科大学、高岡短期大学）に関する様々な資料を収集することに向けて準備を進めています。ご寄贈もしくは貸与いただけるような富山大学の歴史に関する資料がございましたら、アーカイヴズ設置検討準備室（Tel. 076-445-6232）までご連絡いただければ幸いです。

アーカイヴズ・ニューズレター 第5号 2018年3月28日発行

編集：アーカイヴズ設置検討準備室長 入江 幸二（人文学部）